

南の風 550

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

守備から攻撃の局面（トランジションオフェンス）の続きです

この局面の目的は、ボールを失うことなく、すばやく攻撃の態勢を整えることです。

オフェンスは、チームがボールを保持した瞬間、すなわち相手チームからボールを奪った瞬間あるいは相手チームに得点された瞬間に始まります。このような攻守が入れ替わった直後というのは、オフェンスにとっては攻めるゴールまでの間に長い距離と広いスペースがある状態です。またディフェンスにとっては、自陣ゴールに向かってオフェンスに背中を向けながら走って戻らなければならず、当然のことながら、ディフェンスの態勢や陣形が整っていないばかりでなく、マッチアップもできていない状態です。

🔴 ダウンヒルとアップヒル

ディフェンスの準備ができていない相手ゴールに向かって、勢いよく走り抜ける爆発的なエネルギーを使うことができる状況を**ダウンヒル**（downhill；下り坂）と言います。ダウンヒルであれば、例えばイーブンナンバー（攻守が同じ数）でも、1対1やドラッグスクリーン（トランジションオフェンスの状況において、ドリブラーのディフェンスに対して、進路を妨害するような位置にセットするボールスクリーンのこと。ボールを運ぶドリブラーに対するプレッシャーを開放するアクション）のような手数の少ない戦術で、ディフェンスとのズレをつくりだしていくことが可能です。逆にディフェンスの準備ができていない状態を**アップヒル**（uphill；上り坂）と言います。アップヒルでは、手数を踏んでディフェンスを崩すことが必要になります。局面における攻防では、ダウンヒルとアップヒルの特徴を踏まえながら戦況の「有利」「不利」を見極めます。

原則①フルコートで走りこみながら攻める

▶ダウンヒルの勢いを活かして攻める

この局面での目的を達成するために、フルコートで走りこみながら攻めることを原則にして、**「効率よく（手間を省いて）、期待値の高いシュートを選択する」**ことを目指します。

▶ダウンヒルの勢いを生かす

ここでの「有利」とは、「ボールマンが自由にボールをコントロールできる状況」までも含みます。**精神的にも有利な状況にあるので、まずは攻め切ることを狙います。「攻め切る」とは、効率よく、期待値の高いシュート機会を獲得すること**です。相手の守備の態勢が整わないダウンヒルに置いて、勢いのあるエネルギーを活かして攻める視点を持つようにします。また、ディフェンスリバウンドを取ったプレイヤーがドリブルブッシュ（ドリブルでのボール運び）のチャンスを狙うことで、時間を失うことなく、オフェンスに入ることができます。

▶得点されたあともダウンヒルでチャンスを狙う

相手に得点されたあとの機会も見逃さず、守備から攻撃への展開も速くして攻めたい所です。やはり**走りながら攻めることが最もダイナミックで、強さを発揮**できます。次号に続けます